

Monthly Book Medical Rehabilitation No.244 正誤表

特集／手外科リハビリテーション診療

『Monthly Book Medical Rehabilitation No.244 特集／手外科リハビリテーション診療』(2020年1月号)掲載のご論文「TFCC損傷のリハビリテーション」(p.48-52)におきまして、下記3点の誤りがありました。

著者の先生、ならびにご関係者の皆様に深くお詫びし、訂正申し上げます。

2020年2月 全日本病院出版会

p. 50 13行以降 2. Cuff型スプリント
誤)

橈尺骨茎状突起から手関節中央部までを包み込むように固定し、全周性にバンドやスプリントにてDRUJを固定し、求心性を加えるものであり、手関節・前腕の運動は制限しない。遠位橈尺関節を求心的に固定することにより遠位橈尺関節の安定性を向上させ、尺側部への軸圧が軽減する⁶⁾。Fovea付着部損傷に用い、疼痛の改善が75%得られたとの報告もある⁷⁾。固定範囲は狭く、他の装具と比較して生活内や仕事でも手を使いやすいため、筆者らはDRUJの不安定性のない患者や運動開始期に生活内での補助としても用いている。

正)

橈尺骨茎状突起から手関節中枢部⁶⁾までを包み込むように固定し、全周性に熱可塑性プラスチックにてDRUJを固定し、尺側部からの圧により尺側支持機構を緊張させて求心性の圧を加えるものであり、手関節・前腕の運動は制限しない。DRUJと手根骨近位列を求心的に固定することによりDRUJの安定性を向上させ、尺側部への軸圧が軽減する⁶⁾。実用例では、11例12手に約8週の装着した結果、全例に疼痛の軽減と可動域の改善を認めた報告がある⁷⁾。Cuff型スプリントは、固定範囲は狭く、他の装具と比較して生活内や仕事でも手を使いやすいため、筆者らはDRUJの不安定性のない患者や運動開始期に生活内での補助としても用いている。

p. 50 図 2. Cuff 型スプリント
誤)



図 2. Cuff 型スプリント

正)

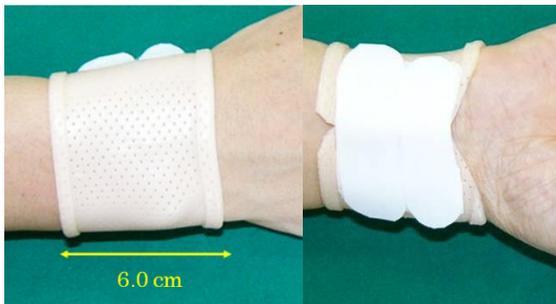


図 2. Cuff 型スプリント

(文献 8 より引用)

p. 52 文献 7

誤)

大西正展ほか:TFCC Fovea 付着部損傷に対する装具療法. 日手会誌, 30(3):300-302, 2013.

正)

西出義明ほか:TFCC 損傷に対するスプリント療法. 日手会誌, 21(4):359-363, 2004.